お出かけ前の点検（出航前点検）をしましょう

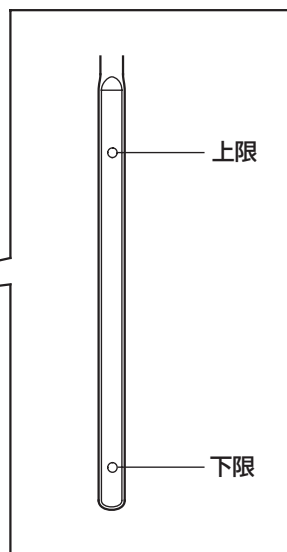
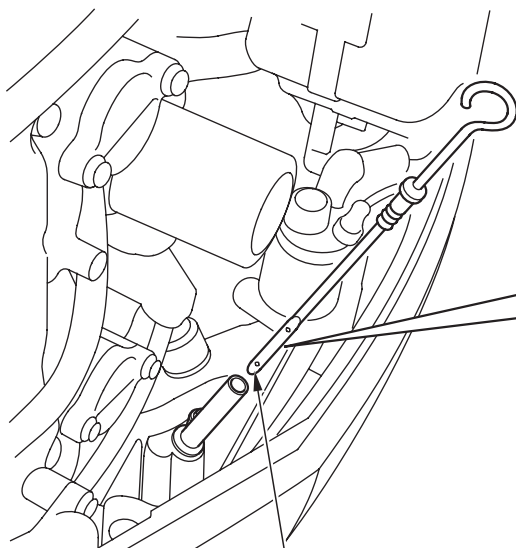
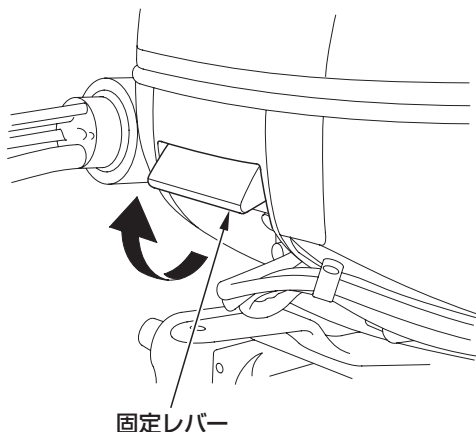
Honda船外機は、4ストローク水冷エンジンです。使用燃料は無鉛ガソリンです。また、エンジン　オイルも必要です。お出かけ前には、つぎの点検を必ず行ってください。

⚠注意

お出かけ前の点検は必ずエンジンを停止して行ってください。

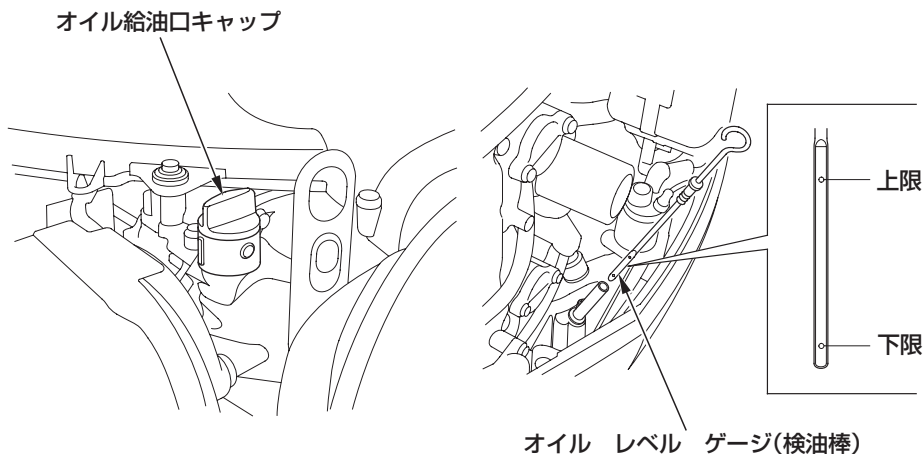
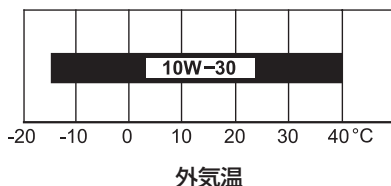
エンジン　オイルの点検

〈点検のしかた〉

1. 前の固定レバーを上げてエンジン　カバーを外します。
2. 船外機を直立状態にして、オイル　レベル　ゲージでエンジン　オイルが目盛の上限まであるか確認します。
   下限に近い場合は補給してください。
   汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は 87 頁参照）

〈補給のしかた〉

オイル給油口キャップを外し、オイル　レベル　ゲージの上限まで新しいエンジン　オイルを注入します。

〈推奨オイル〉

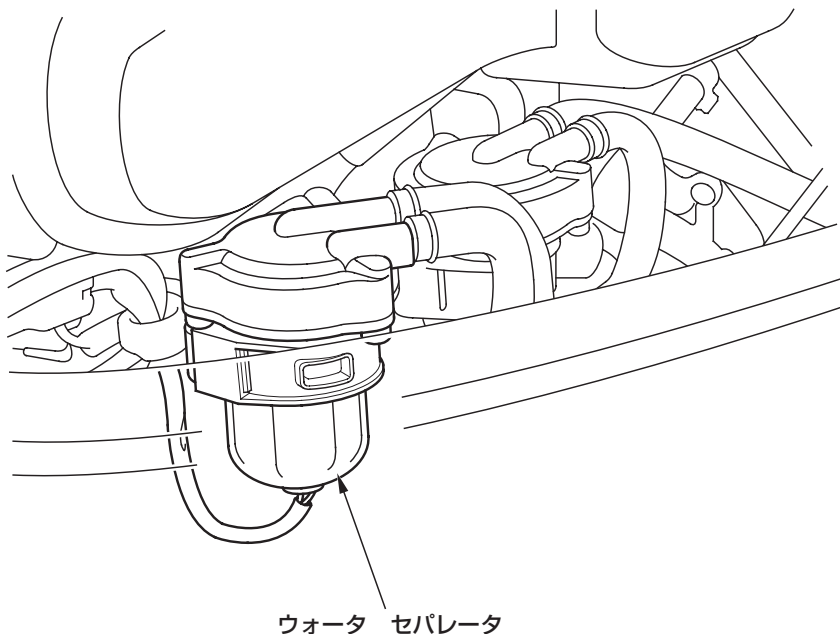
API分類SG、SH、SJ級相当のSAE 10W-30エンジン　オイル

取扱いのポイント

- オイル給油口キャップは、手で確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。
- オイルを入れすぎないよう、注入後必ず点検してください。オイルが少ないときはもちろんのことですが、入れすぎることもエンジンの故障の原因になります。

ウォータ　セパレータの点検

オイル　レベル　ゲージの前方にウォータ　セパレータがあります。ウォータ　セパレータの中に水や沈でん物がたまっていないか点検してください。

〈点検のしかた〉

1. エンジン　カバーを外します。
2. ウォータ　セパレータの中に水や沈でん物がないか点検します。
   - 水や沈でん物がたまっていたときは、「ウォータ　セパレータの清掃」に従って水や沈でん物を取除いてください(96 頁参照)。

燃料の点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して大けがや死亡事故を引き起こすことがあります。
ガソリンを補給するときは

- 火気を近付けないでください。
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で補給してください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンを注入口の口元まで入れないでください。タンク内の空気やガソリンが膨張して、燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。布を閉じられた部屋に保管しておくと、ガソリンが気化し引火するおそれがあります。

〈点検のしかた〉
燃料の量を点検します。点検のしかたはボートの取扱説明書の指示に従ってください。

⚠注意

予備の燃料タンクをご使用になる場合は、ガソリン用として日本小型船舶検査機構で認定された材質の物を使用してください。認定されていないポリタンク等を使用すると、強度・材質の変化によりガソリンがもれるおそれがあります。

使用ガソリン：無鉛ガソリン

取扱いのポイント

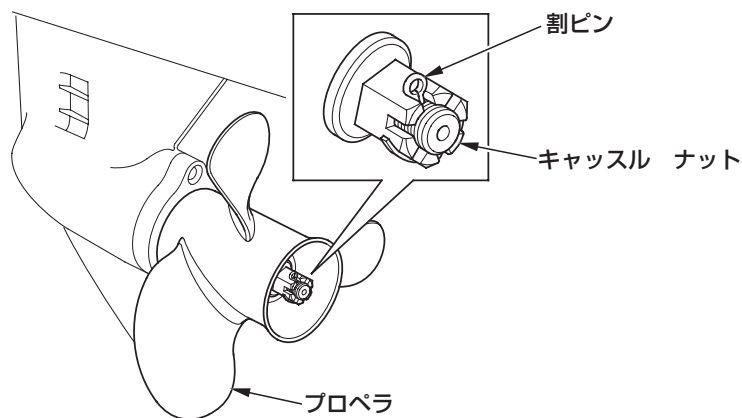
- 水や不純物が混ざっていない、新しいガソリンを使用してください。
  ガソリンは自然劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。
  劣化したガソリンを使用するとエンジン故障の原因となります。
- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

プロペラの点検

⚠警告

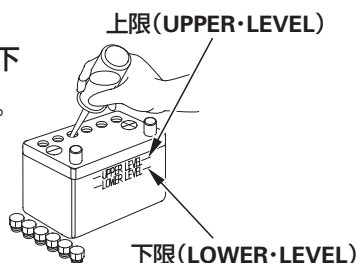
プロペラ　ブレードは、薄く鋭利で不用意に取扱うとけがをするおそれがあります。点検をするときは、

- **エンジンが始動するのを防ぐために必ず非常停止スイッチのクリップを外しておいてください。**
- **手袋等をして注意して行ってください。**

1. プロペラが摩耗、損傷、変形していないか点検してください。
   異常のある場合には、お出かけ前に交換してください。
2. プロペラの取付状態、割ピンの点検
   取付けナット(キャッスル　ナット)にゆるみがないか、また割ピンが損傷していないか点検してください。割ピンはHonda純正品をご使用ください。

- 航走中の不測の事故に備えて、予備のプロペラ、ワッシャ、割ピン、キャッスル　ナットを携行してください。万一持ち合わせのない場合には低速で静かに帰り、プロペラを交換してください。プロペラの交換手順は、102 頁を参照してください。
- プロペラの選定はお買いあげ販売店にご相談ください。

バッテリ（別売部品）の点検

バッテリの液面が各槽とも**上限（UPPER・LEVEL）**と**下限（LOWER・LEVEL）**の間にあるか点検してください。

〈補　給〉 少ないときはキャップを外し、バッテリ補充液（蒸留水）を**上限（UPPER・LEVEL）**まで補給します。

〈端子の手入れ〉
- 端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。
- 端子に白い粉がついているときは、お湯で清掃し、完全に乾燥させて接続後グリースを塗布してください。（バッテリ　ケーブルの接続は35頁参照）
- バッテリ液の補給、手入れを行う場合はバッテリ　ケーブルを取外して行ってください。

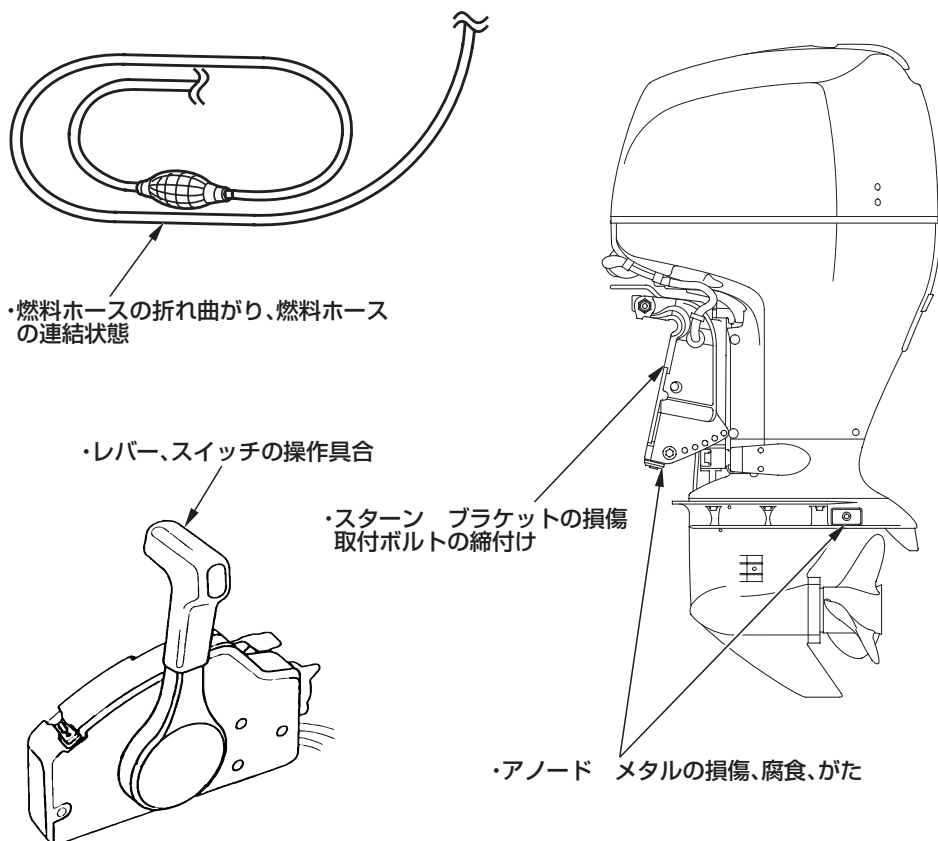
⚠警告

- **バッテリの近くでは火気を絶対使用しないでください。**
  バッテリは引火性のガスを発生し、爆発する危険があります。
- **バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。**
  破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- **バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水で少なくとも15分間以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。**

⚠注意

バッテリ補充液（蒸留水）を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食する原因となります。上限（UPPER・LEVEL）以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときは、必ず水洗いをしてください。

その他の点検

安全な運転をしていただくために、つぎの項目も忘れずに点検してください。

以下の物は点検整備、応急修理にかかすことのできないものです。

いつも所定の場所に格納しておきましょう。

・付属工具（86頁参照）
・予備のエンジン　オイル、点火プラグ、プロペラ、プロペラ　ワッシャ、割ピン、キャッスル　ナット
・非常停止スイッチの予備クリップ
・取扱説明書